



『不完全な「良心回路」』(12月15日)を振り返って・・・

石ノ森章太郎の作品「人造人間キカイダー」。人造人間のジローは良心回路が不完全であったため、ギルの吹く笛によって「悪の命令」が入ってきて、数々の苦しみを背負うことになる。悪善に苦しみながらも「キカイダー」にチェンジして戦うジロー。物語の中で何度も「不完全な良心回路」を修理しようという話が持ち上がるが、ジローはそれを拒む。なぜなら「不完全な良心を持っていたほうが人間らしい」から。

「人間の心を持ちたい」ってどういうことだろう。「不完全である故の人間の心のよさ」ってなんだろう。

揺れながら、悩みながらでもいい。人の弱さや痛みを理解して「心」を成長させていきたいですね。

<みんなの感想より>

- ロボットはただ命令に従うだけだけど、人間は自分で善悪を判断できるし、自分の道は自分で選んでいけるので、ロボットには支配される世の中になっても、ロボットは人間にはかなわないと思いました。(男子)
- 私は自分は不完全のままでいいなと思いました。私は不完全だからこそ優しい心を見つけられたり、思いやりとかができるたりすると思うので、私は私のままでいいと思ったし、今の自分を大切にしようと思いました。私は文房具を買うとき迷ったりするけど、迷うことも楽しいと思うので、迷うことも大切にしてそれで自分を成長させていなければいいと思いました。(女子)
- 人がみんな完全になってしまふと世界は平和になると思います。でも今みたいにおもしろくないと思います。また人それぞれ「正しい事」「悪い事」があると思います。人それぞれ持っているからこそ今の世界があると思います。だから完全でもあまりうまくいかない。だから難しいけれど完全ではなく、不完全のまま「不」の部分を「良」の方に持つていけるようにしたらしいのかなと思いました。(男子)
- 不完全な人がたとえたくさんいたとしてもそれはよいことであり、決して悪い事ではないので、それを改善していくことには人間性が出るのではないかと思う！(男子)
- 人それぞれ個性がある。個性は人と人がぶつかり合い、時にはケンカにもなり、ピースがはまらないパズルのようだ。でもその最後のピースがはまると最高のものが得られる。これから私はパズルを埋めるために努力していくと思った。(女子)
- 人間の心には様々な感情があるとわかった。不完全であるゆえの人間の心の良さがとてもわかった。そして、人間の心の良さをもっとしらなければならないと思った。(男子)
- 普段いやな思いや悔しい思いをすることもあるけれどそんなことがあって良心や楽しみが生まれるのだと思った。最近はコンピューターなど、機械にたよった世の中になってきているけれど、人間の心より素晴らしいものはないと思う。便利なことも大切だけど、少し昔に戻って自分たちの良さを知ることも大切だと思った。(女子)
- 良心が命令で動いたらそれは自分じゃなくなると思います。不完全と聞くと壊れている、変なところがあると思うけど、自分で考え、苦しんで、悩んで見つけ出すのが、自分の答え、自分の気持ちだと思うからです。例えば、親に怒られるとなぜ怒られたのか考えて、親の気持ちを考えて、自分が悪かったとかを見つけ出します。命令で動いたら、親に怒られても自分が良いと思ってしまうので、不完全の方が心の良さがとても出ると思いました。(女子)
- 人間の心の良さは迷いがあることだと思う。迷いがあるということはしっかり後のことを考えられているからだと思った。迷って選んだ結果が悪かったらそれを見つめ直すことができる。そしてこれからのことを考えることができる。だから人間は学習し、成長する。僕は確かに良心回路があれば迷っても考えなくていいから楽だと思う。でもそうしてしまうと相手のことも考えられないし、今やっている行動が正しいかどうかかも分からない。だから、これからはたくさん失敗して学習していこうと思った。(男子)